

## 郵船クルーズ株式会社新造クルーズ船「飛鳥Ⅲ」の 船籍港が横浜港に決定

郵船クルーズ株式会社（横浜市西区：代表取締役社長 遠藤 弘之）が建造を進めている新造クルーズ船「飛鳥Ⅲ」について、これまで山中 竹春 横浜市長のトップセールスなど、誘致活動を進めてきましたが、この度、その船籍港が「横浜港」に決定しました。

現在、横浜市は 2050 年の脱炭素社会実現を目指し、カーボンニュートラルポート※の形成に向けた取組を推進しています。新造クルーズ船「飛鳥Ⅲ」もカーボンニュートラルを基本コンセプトの一つとして、日本のクルーズ船で初めて LNG 燃料や陸上電力受電装置を採用することから、相互連携を深め、脱炭素イノベーションを世界に発信していきます。

引き続き、東アジアのクルーズ船発着拠点として、クルーズ船の受入、誘致に積極的に取り組んでまいります。

### 【新造クルーズ船 概要】

- 船名 飛鳥Ⅲ
- 船籍港 横浜港
- 全長 230.2m
- 総トン数 52,000GT
- 総客室数 385 室
- 乗客定員 約 740 名
- 乗組員数 約 470 名
- 就航予定 令和7年夏頃

（令和5年9月時点）



（「飛鳥Ⅲ」イメージ：郵船クルーズ株式会社提供）

### ※カーボンニュートラルポートの形成

横浜市では、2050年の脱炭素社会の実現を目指し、国、民間事業者等と連携しながら、カーボンニュートラルポートの形成を推進しています。その実現には、様々な分野における関係者との連携が不可欠であり、ENEOS株式会社等の民間事業者や川崎市等の自治体等と連携・協力しながら、水素等次世代エネルギーの輸入・供給大規模拠点の形成に向けて取り組んでいます。

### お問合せ先

港湾局客船事業推進課長 高橋 哲 Tel 045-671-7237